

佐保川小学校冬の学習支援レポ

—寒い冬に木々たちは—

小島 武雄

1月22日(月)奈良市佐保川小学校にて、今年度最後の自然観察学習支援が行われました。4年生対象で午前中の2時限9時30分からと10時35分からそれぞれ45分です。

当会から、山本、桜木、坪井、東、足立、小島の6名が講師として出席しました。

朝9時、この時期としては暖かな校庭で、佐保川の森にある16本の樹木に番号札取り付けなど準備を行います。



始業のチャイムがなり校庭に子どもたちが元気よく集合しました。当会の挨拶と講師自己紹介の後、これからやってくる春の準備をしている

「冬芽」の話をして早速3班に分かれ、それぞれの樹木に集まります。主な樹木は、クスノキ、ハナミズキ、クヌギ、ドウダンツツジ、イロハモミジ、アキニレ、ヒラドツツジなど、それぞれはとても小さな芽ですが、赤い花芽、尖った葉芽、丸い蕾、ビワの白い花、葉っぱの中に隠れている花芽、模様、今にも咲きそうな蕾もあり。子どもたちは一生懸命に探し出して、興味深く観察。

フタバガキの種、ドングリについては、根の出

たコナラの実を集めて、根がどこから出て、どんなふうに伸びるのかを分かるようにパネル展示。そして先生にお願いして、皆に配って家に持ち帰ってもらい、庭や植木鉢でどのように成長するか観察してもらうことに。イロハモミジの種が枝に少し残っているのを見せて、種がどのように飛んでいくかの体験をしました。



持参した大きなフタバガキの種を飛ばして、大きく回転するのを見せた上で、型紙で作った模型を輪ゴムで飛ばす実験をしました。初めは、上手にできませんでしたが、コツをつかんでからは、歓声を上げて校庭で何度も空に飛ばし、夢中になって走り回りました。



今年度は、春の樹木観察から始まり夏の自然工作(熊のペンダント)秋は春からの樹木の変化、そして、今回の冬芽と4回の自然教室が開催できました。子どもたちからは、来年も「もっとやりたいー!」との声も上がりました。

終了後、校長室で学校の歴史などの話を伺い、来年度の学習支援予定を確認しました。